

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぱずる（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和7年1月20日～令和7年2月10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35名	(回答者数) 30名
○従業者評価実施期間	令和7年1月20日～令和7年1月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	機能訓練担当職員として言語聴覚士・理学療法士がいることから様々な角度から療育へのアプローチができています	支援前の打ち合わせや、支援後にはフィードバックを行っている。カリキュラム作成の際も様々な資格を持つ職員が話し合い、一人一人に合った支援方法を話し合うことができています	面談の他、メールや電話で保護者の方との情報共有を丁寧に行い寄り添いながら連携しより良い支援につなげていく
2	小集団での療育を中心としているが、職員数も多いため個別での対応も可能である	小集団ではあるが、身辺自立に向け個々に合わせたかかわりや、制作や運動時などそれぞれの課題に合わせて支援している	職員全員で活動設定を考え意見交換することを増やしていく。また、10人定員の事業所なので午前午後を5人程度の小集団とし発達段階に合わせたクラス配置に努める
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	短時間の療育であるがために、地域の方と交流が図ることが難しい	活動の中で近くの公園や、郵便局、駅などへの散策するなどしていますが、交流は現在なし。運動療育の際、遊戯施設に出かけることもあるが曜日指定になることから全員参加は難しい	イベント開催の中で地域の方とのふれあいや、同世代との交流の場ができるよう積極的に取り組んでいきたい。また、普段から保育園やこども園、幼稚園との地域連携の強化も努めていく
2	保護者同士の交流の充実	現在保護者会もなく、平日のみの営業であることから交流の場を作ることが難しい	定期的イベントのような形で、保護者同士の座談会や、交流会を企画したい。グループ活動等で保護者同士が関わる機会を必要に応じ設けていきたい
3	非常時発生の備えやマニュアル等についての周知ができていない	重要事項説明書を説明する際に、非常時の備え、避難訓練の有無などについてお伝えしているが、実際に訓練の場に遭遇する機会が少ないため、イメージしにくい	重要事項説明書を説明する際、丁寧に分かりやすい説明に心掛ける。また、ホームページからリンク付けしや玄関に設置しマニュアルをいつでも読めるようにする